

【全体】

非常に力強い着地だった。元々の見立てから事業別にどのくらい上振れたか。一過性の利益損失があれば教えてほしい。

新興国二輪車の回復は想定以上。インドネシアはコロナ前までには戻っていないが、想定以上に回復してきており、一番大きな上振れ要因。もう一つは、経費削減。当初予想で販管費が厚めに入っていたが、実質的に減らせると思っていた。今後も継続していく。一過性の内容は、一時的な成長戦略費用・開発費用の後ろ倒しであり、第2四半期以降に発生する見通し。

通期ガイダンスで営業利益 200 億円は事業別にどのように動いたか。第1四半期の上振れ分以外に、もう 100 億円を乗せているが、それはコスト面を織り込んでいるのか、トップラインでもう少し上振れを見込んでいるのか。

事業別内訳は申し上げられないが、新興国二輪の貢献度が一番高いと思っている。先進国のランドモビリティとマリンも需要が強い。先進国事業は当初よりは強気の見通しをしている。第1四半期の上振れは主に新興国二輪の好調と経費削減。今後も部品供給の遅れによる生産の遅延やロジスティクスの逼迫状況の継続などの下振れ要因もあるが、新興国二輪事業の回復やプレミアムモデルへのシフトの加速、経費削減を確実に実行して体質改善していく。

半導体関連でロボティクス事業の好調が期待できるということだが、一方で二輪車事業や船外機における部品としての半導体の調達リスクはあるか。

四輪のように大規模な生産停止には至っておらず、特定モデル等の限定的な影響に留まっている。二輪車も船外機も供給が追いつかない状態なので、仮に半導体の影響が出るモデルがあったとしても別のモデルに切り替えながら高い稼働状況を維持している。調達チームの努力で大幅な生産停止を避けられているが、今後の状況を注視。

ハイパーEV 向け電動モーターユニット試作の開発受託について、今後の事業展開の可能性を伺いたい。これをもって再び四輪に参入するということがあるのか、またはモーター開発に範囲を絞って注力されるのか。

発表以降、国内外から問い合わせがある。試作開発の受託をしているところもある。EV が普及していく中で、当社の供給先は広がっている。既存の四輪メーカー以外に、電気関係や全く異なる業種からの参入もあるので、その供給チャンスを事業に結び付けていきたい。

【ランドモビリティ】

インドネシアでは、四輪車への政府のサポートにより需要が急速に戻っている。二輪車についても、政府のスタンスの変化でポジティブな影響は出てきているのか。今後の需要の回復はどう見込んでいるのか。

大統領発言によってローン支払いの猶予が 3 月末までは続くと見込んでいた。現地の状況を見ると、非常に厳しいファイナンスの締め付け状況から、通常に戻りつつあるというのが実態。四輪のような実質的なサポートは無いが、状況は好転していてそれがインドネシアでの想定以上の回復につながっている。今後の需要の予測は難しいが、一気に回復するとは見えていない。今までと同じようなペースでいくのがリーズナブルな見立てだと思う。

新興国二輪車のプレミアムモデルが売れた背景を解説してほしい。新商品が出たから売れているのか、ローンの期間や金額の増加によるものか。また、プレミアムセグメント自体が伸びており、しっかりシェアを確保できているというイメージでよいか。

キャッシュ購入比率が高いため、ローン影響は少ない。プレミアム化の背景について、上位中間層の購買力が上がってきていること。インドネシアは、当社が NMAX 等の MAX シリーズでプレミアム領域を開拓。競合もこの領域のモデルを出しているように、ここが主戦場になる。売れるモデルは国によって違うが、上位中間層に確実に届いている。

シェアについては、プレミアム領域が確実に増えている中で、当社は一番高いプレゼンスを持っている。それをキープしてそのセグメントの拡大とともにボリュームも増やしていきたい。

【マリン】

第 1 四半期のマリン事業の利益率が 20%近く出ている背景を教えてください。コンテナ不足影響や在庫水準などの状況について教えてください。また、米国マリンの需要見通しについて、3 ヶ月前と変化はあるか。特に下半期の需要の見立てにアップデートがあるか教えてください。

船外機は利益率が非常に高い。ボートは船外機ほどではないが、利益率が上がってきている。

コストダウンもあり、きっちり限界利益が取れる構造になってきている。そのためマリンの利益率全体も上がっている。また、経費削減も大きく効いており、利益率に寄与している。ロジスティクス状況については、まだ正常に戻ってはいないが、改善に向かっている。現地の在庫が薄く厳しい状態だが、生産はフル稼働でしっかり供給していきたい。米国の需要見通しについては、3ヶ月前は、「下期はまだ分からない」と答えたが、現在では「下期も需要が強い」という見立てに変わった。

【ロボティクス】

ロボティクスの売上がアジア中心に伸びている。今後の見通しを解説してほしい。ヤマハロボティクスホールディングス（以下、YRH）は売上がかなり戻っているが、まだ赤字。どうなれば黒字が見えてくるか。

需要は、中国が先ず回復し、内需向けが活況化した。この動きが台湾・韓国そして先進国へ拡大してきた。半導体の不足は、ロボティクス事業にとっては追い風。まだ需要が続くため業界としてはポジティブ。YRHの赤字は一つの問題としてあったが、もともと赤字会社を買って当社の戦略に繋げるという計画。構造改革は約束したように進んでいる。それに加え、半導体需要の活況が販売増加に繋がっており、非常に良い環境。今期黒字化できると思っている。マウンターもYRHも需要は強く、工場はフル稼働で生産している。

以上